

令和5年度 北海道小学校長会地区活性化支援事業【実践事例レポート】

- 1 報告地区：帯広地区
- 2 事例報告学校名：帯広市立開西小学校
- 3 報告者職・氏名：校長 阿部 昌己
- 4 キーワード：地域との連携による特色ある教育活動

1 はじめに

本校は、帯広市街地の西地区にあり、西帯広ニュータウン住宅団地の造成に伴う児童数増加に対応するため、西小学校から分離・新設され、昭和60年4月に開校した学校である。平成2年には全校児童1,180名を数えるマンモス校となったが、平成3年と平成11年に近隣に新設校がそれぞれ開校し、ここ数年は全校児童数200人台で推移している。校舎は、本校の敷地よりも広い西帯広公園に隣接し、近くに帯広川が流れる自然豊かな環境に恵まれた場所に立地している。

また、各階に「ラーニング」と呼ばれる広いオープンスペースが設けられ、子どもたちが学習や集会活動、日常的な交流の場として心を開放し、笑顔で学び合う姿を見ることができる。現在の学級数は14（通常学級9・特別支援学級5）、児童数は239名であり、引き継がれてきた合言葉「自分が好き 友だちが好き 学校が大好きな 開西小の子」の下、子どもたちは元気に学校生活を過ごしている。

2 開西小学校コミュニティ・スクール協議会

本校では、令和3年度より学校運営協議会が「開西小学校コミュニティ・スクール協議会」として設置され、コミュニティ・スクールの活動が開始された。協議会の委員には、PTA会長、元校長などの有識者をはじめ、「放課後の居場所づくり」「図書」「子どもの見守り活動」などの各種ボランティア団体の代表の方も名を連ねており、地域学校共同活動との一体的推進が円滑に進められる環境が整っている。昨年度までは、新型コロナウイルス感染症への対応のため、制限された活動もあったが、今年度は協議会でも熟議を重ね、目指す子ども像の共有を図り、学校教育目標達成に向けた効果的な教育活動について模索している。

3 帯広川伏古地区子ども水辺協議会

コミュニティ・スクール協議会の委員の中には「帯広川伏古地区子ども水辺協議会（子ども水辺協議会）」の会長にも入っていただいている。「子ども水辺協議会」は、「帯広川の流域に居住する人々が、世代を超えて連携し、地域の自然のもつ素晴らしさや、先人の開拓の歴史等を学びあう活動を通して、時代を担う子どもたちに、いつまでも故郷を忘れず、明るくたくましく生きる豊かな心を育てる。」ことを目的に平成22年に発足し、以来、近くを流れる帯広川に関する様々な学習を、本校児童に行っている。本稿では、地域と連携した特色ある教育活動の一つとして、「子ども水辺協議会」と連携した取組を紹介する。

(1) サケの人工授精体験会

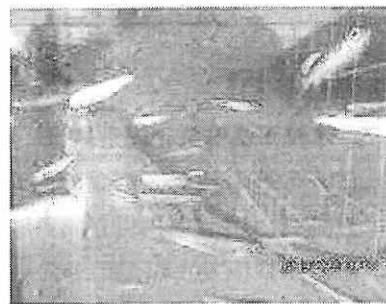
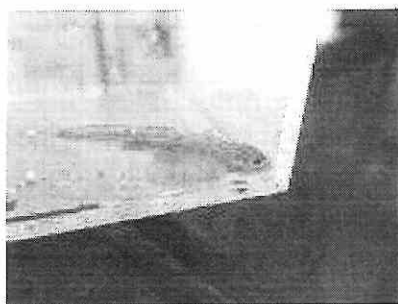
例年、2年生を対象に、サケの人工授精体験学習を実施していただいている。今年度も10月23日に体験会を行った。子どもたちは、サケのオスとメスの体の違いの説明を聞いた後、実際に採卵・採精を行い、最後に受精卵を水槽の中に沈めていく一連の作業を体験させていただいた。子どもたちは、協議会の方の話をしっかり聞き、自らの手で受精卵を作ることを通して、改めて生命誕生の不思議や育てることの大変さ、無事に成長してほしいという思いなど、多くのことを学び、感じる機会となった。



【人工授精の授業の様子】

(2) サケの稚魚の飼育・管理

受精卵は、児童玄関前に設置された水槽の中に入れることで、子どもたちがいつでも観察できるようにしており、11月現在孵化するのを待っている。今年4月には、昨年度ふ化した立派な稚魚が、多数、水槽の中を泳ぐ姿が見られた。当該学年以外の児童も、登下校時や休み時間に、サケの成長の様子を、興味をもって観察している姿が見られた。



【昨年度孵化したサケの稚魚の様子】

(3) サケの稚魚放流会

ふ化したサケの稚魚は年度をまたいで、例年4月下旬に、学校近くを流れる帯広川に放流している。今年度も4月28日に昨年人工授精体験をした3年生が、水槽から移したサケを放流する体験を行った。子どもたちは、自分たちがふ化させたサケの稚魚をコップに移し、体に傷がつかないように、優しく放流していた。「大きくなって元気に戻ってきて。」とつぶやく子どももあり、改めて生命の尊さを体感する活動となった。



【放流の様子】

(4) 水辺体験学習

この他にも、帯広川まで歩いて行き、実際に川に入って、生き物の生態系について学んだり、河川事故の未然防止に向けて、川に潜む危険に関する話を聞いたりする水辺体験学習を行っている。残念ながら今年度は天候不良や川の増水により実施できなかったが、子どもたちにとっては校区内の身近な川の様子について学ぶ貴重な機会であり、併せて河川敷のゴミ拾いなど、環境保全についての意識も深める機会となる学習である。



【過去の水辺体験学習の様子】

4 おわりに

10年にわたり「帯広川伏古地区子ども水辺協議会」の協力により実施されてきた一連の活動であるが、コロナ禍で数年間十分な活動ができなかったことや協議会の方々の高齢化と後継者が不在の状況から、協議会自体が、今年度をもって解散する方向で協議がなされている。

学校としては、各教科や総合的な学習の時間、特別の教科である道徳にも関連する内容として浸透してきた活動であり、各学年の教育効果についても成果を実感している。今後は、学校運営協議会の中でも協議し、学校がやらなければならないことと地域の力を借りなければできないことを整理するなど、新しい形を模索しながら、本校の伝統的な活動として継承していきたいと考えている。